

(2) 連結業績予想の修正理由

売上高に関しましては、4,458百万円（前回予想比0.2%増）となり、ほぼ予想どおりの着地となる見通しであります。しかしながら、全自動遺伝子診断装置「geneLEAD X II Plus」やそれに搭載されるDNA抽出試薬などの新製品の立ち上げ期であり、円高の影響もあり、想定どおりの安定した利幅確保は難しく、売上総利益は、1,398百万円（前回予想比5.5%減）となる見通しであります。

また、経費面においても、積極的な開発費支出777百万円を実施したことから、販売費及び一般管理費は、2,136百万円（前回予想比3.7%増）となり、営業損失△737百万円（前回予想は△580百万円）の見通しとなりました。

開発費の負担は重いのですが、現在、これまで培ってきた当社技術とコストダウン思想を盛り込むことで、すでに販売中の「geneLEAD X II Plus」を大きく進化させた安価でコンパクトな全自動遺伝子診断装置「geneLEAD VIII（自社ブランドの新機種）」の開発と、これに搭載する複数項目の遺伝子診断薬の開発を進めております。（開発契約や事業契約締結などの具体的な進捗があった際には、積極的に公表させていただきたいと考えております。）

また、為替差損90百万円の発生等により、経常損失△821百万円（前回予想は△640百万円）、更に、上記の減損損失908百万円を特別損失に計上することにより、親会社株主に帰属する当期純損失につきましては、△1,582百万円（前回予想は△610百万円）となる見通しとなりました。

3. 今後の見通しについて

来期の見通し及び3ヵ年の中期事業計画に関しましては、正式には決算発表時に公表させていただきます。

今回、固定資産の減損損失を計上することとなりましたが、当社グループといたしましては、リストラや開発費の削減による黒字化を目指すのではなく、geneLEADシリーズを中心とした遺伝子診断分野への事業展開を図ることで、業容拡大による2～3年後の黒字化を目指していく所存であります。

当社の主力製品はOEM製品が中心となっておりますが、今後は、DNA自動抽出装置であるMagLEADシリーズや全自動遺伝子診断装置であるgeneLEADシリーズを中心として、DNA抽出試薬や増幅・診断試薬も提供することで、自社製品のラインアップを充実し、アジア・米国・欧州の3極におけるPSS直販体制、及び当該地域における約30ヶ国に及ぶ販売代理店の契約締結を視野に入れた販売網構築を目指してまいります。

また、製造工場であるエヌピーエス㈱や大館試薬センターにおいては、生産ラインの増強と省力化を推進し、将来の増産に備えるとともに、外注先の工場と協力し、当社と一体となって製品コストダウンに注力していく所存であります。

既に、これらの活動を開始しておりますが、当連結会計年度において、実績として有意義な数字を示すまでには至りませんでした。しかしながら、引き続き来期に向けて、積極的に活動してまいりたいと考えております。

※業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上